

# 関東大震災と朝鮮人

西村 直登\*

## はじめに

- ・ 関東大震災における朝鮮人虐殺事件の歴史的事実を概観する。
- ・ 生き延びた朝鮮人にとって、関東大震災とはどのような経験だったのかを考える。
- ・ 現在、関東大震災朝鮮人虐殺の歴史をどのように学び、記録・記憶を継承していくのかを考える。

## 1. 関東大震災の概要

- ・ 1923年9月1日午前11時58分、関東地方でM7.9の地震が発生。
- ・ 関東大震災は、地震による家屋の倒壊やその後の火災による被害のみならず、日本人の軍隊・警察・自警団によって朝鮮人や中国人、日本人を虐殺したという事件が起こったという点において、その他の震災と大きく異なる出来事であった。

### (1) 「天災」——地震、火災による被害

- ・ 建物の崩壊：東京・神奈川を中心に37万2,659棟の家屋が崩壊。
- ・ 火災の被害：東京市の約44%、横浜市の80%は焼失。

※陸軍被服廠跡（現在の横網町公園周辺）では「火災旋風」により3万8,000人が死亡。

→死者・行方不明者は10万5,385人と推定。

### (2) 「人災」——流言飛語、戒厳令、虐殺事件

- ・ 流言飛語の拡散：「朝鮮人が井戸に毒を入れている」「朝鮮人が暴動を起こしている」
- ・ 戒厳令の施行：東京、神奈川、埼玉、千葉全域に施行。「朝鮮人暴動」の鎮圧に「適法」と判断。
- ・ 虐殺事件の発生：戒厳令の下、軍隊・警察・自警団によって、数千人の朝鮮人と数百人の中国人、数十人の日本人（社会主義者・無政府主義者・地方出身者・障がい者など）が虐殺された。

## 2. 日本の植民地支配と朝鮮人の渡日

### (1) 朝鮮人の渡日

◆ 朝鮮人労働者

◆ 朝鮮人留学生

◆ 日朝間における朝鮮人渡航管理体制

---

\* 同志社大学人文科学研究嘱託研究員、桃山学院大学兼任講師。主な論著として、「関東大震災朝鮮人犠牲者名簿の生成」（太田修編『植民地主義、冷戦から考える日韓関係』同志社コリア研究センター、2021年）、「関東大震災に対する朝鮮社会の反応」（『コリア研究』10号、2020年3月）、「関東大震災下における朝鮮人の帰還」（『社会科学』47巻1号、2017年5月）等がある。

(2) 朝鮮人に対するイメージ

3. 流言蜚語、戒厳令、虐殺

(1) 流言蜚語の拡散と日本政府の対応

(2) 戒厳令施行、虐殺事件多発、自警団結成

(3) 日本各地における流言蜚語の拡散

(4) 流言蜚語の取締と「事実」の認定、国家責任の回避・隠ぺい

(5) 官民一体の朝鮮人虐殺

4. 虐殺事件に対する反応

(1) 朝鮮人の帰還

(2) 真相究明活動

◆ 朝鮮人安否調査

◆ 朝鮮人犠牲者調査

① 司法省 ※「震災処理」としての自警団裁判

② 在日本関東地方罹災同胞慰問班 ※持ち去られた遺体・遺骨

5. 繰り返し想起される「虐殺」の記憶

(1) 日本人と朝鮮人の記憶のズレ

◆ 日本人の「疑心暗鬼」、朝鮮人の恐怖

◆ 「殺される」かもしれない「予感」(敗戦直後の広島)

◆ 「殺される」かもしれない「恐怖」(阪神・淡路大震災)

◆ 現在の災害における在日コリアンに対する流言蜚語

◆ 東日本大震災における「外国人犯罪」の流言蜚語

◆ 過ぎ去ろうとしない過去：在日朝鮮人の集団的な記憶の想起、トラウマ化

## (2) 戦後日本社会における研究・運動の開始

## (3) 新たな歴史否定論の台頭

### おわりに

#### (1) 関東大震災朝鮮人虐殺事件を見る／捉える視角

- ・関東大震災における朝鮮人虐殺事件は、朝鮮人にとって植民地支配の暴力を象徴する出来事だといえる。
- ・「戦争状態を伏流化させた植民地支配」(姜徳相)、<sup>カンドクサン</sup>「植民地戦争」(慎蒼宇)<sup>シンチヤンウ</sup>の過程で起きた朝鮮人虐殺。  
→朝鮮人虐殺事件は地震の「混乱」の中で起きたのではなく、植民地支配の暴力の連鎖の中で起きた。
- ・「民族問題としての朝鮮人虐殺事件」(姜徳相)
- ・「朝鮮人迫害の裾野の広さ」「朝鮮人虐殺事件の歴史的意味」(山田昭次)  
→ミクロ的な視点(朝鮮人虐殺)とマクロ的な視点(植民地支配)を合わせて考える必要がある。

#### (2) 「私たち」の歴史として考え向き合うこと

- ・研究者のみならず、地域住民による調査・追悼・出版活動等によって、数多くの事実が明らかになったが、十分に明らかになっていないことが多い。真相究明の必要性。  
⇒朝鮮人が、いつ、どこで、誰が、どれくらい殺されたのか、いまだ正確に分かっていない。  
←今日に至るまで、関東大震災における朝鮮人虐殺事件に対する日本政府の公式的な真相究明調査、謝罪、賠償がおこなわれていない。
- ・ひとりひとりが「私たち」の歴史として考えながら、個人・社会・国家の植民地主義をどのように克服していくのかを考える。  
←被災地以外の地域においても関東大震災の影響があった。朝鮮人に対する流言蜚語が伝播・拡散され、朝鮮人警戒体制が敷かれ、朝鮮人迫害事件が多発した。
- ・「かわいそう」「差別はいけない」を超えて、他者の「痛み」をどれくらい想像できるか。  
→「差別は人を殺す」ことができる。差別を完全になくすことは難しいとしても、差別を許さない社会を目指すことは可能。

#### (3) 関東大震災をめぐる記録・記憶

- ・震災を直接経験・体験した人が現在ほぼいない中、経験・体験者から聞き取りをした人から当時の状況を知るしかない。第2世代の高齢化。
- ・事実を継承・記憶することのみならず、さまざまな史料を収集・整理・保管・公開し、だれもが当時の史料をアクセスできる環境を整える必要性。書籍・資料集の出版、博物館・資料館の設置(「記憶と平和のための1923歴史館」(韓国・天安市<sup>チョナン</sup>))、オンラインアーカイブの構築。  
→だれが、何を、どのように、どのような記録・記憶を継承していくのか。  
➡「虐殺」に対する責任(知る、調べる、認める、謝る、伝える・・・)を果たす社会へ。

## 【おすすめブック・HPリスト】

### ◇ 資料集

姜徳相・琴乗洞編『関東大震災と朝鮮人：現代史資料 普及版』（みすず書房、2023年）（初版：1963年）

姜徳相・山本すみ子共編『神奈川県 関東大震災 朝鮮人虐殺関係資料』（三一書房、2023年）

### ◇ 証言集

西崎雅夫編『証言集 関東大震災の直後 朝鮮人と日本人』（ちくま文庫、2018年）

西崎雅夫編『＜普及版＞ 関東大震災朝鮮人虐殺の記録：東京地区別 1100 の証言』（現代書館、2020年）

### ◇ 基本文献

新井勝紘『関東大震災：描かれた朝鮮人虐殺を読み解く』（新日本出版社、2022年）

加藤直樹『九月、東京の路上で：1923年関東大震災ジェノサイドの残響』（ころから、2014年）

関東大震災 90 周年記念行事実行委員会編『関東大震災 記憶の継承：歴史・地域・運動から現在を問う』（日本経済評論社、2014年）

姜徳相『新版 関東大震災・虐殺の記憶』（青丘出版社、2003年）

後藤周著、加藤直樹編集『それは丘の上から始まった：1923年横浜の朝鮮人・中国人虐殺』（ころから、2023年）

関原正裕『関東大震災 朝鮮人虐殺の真相：地域から読み解く』（新日本出版社、2023年）

田中正敬・専修大学関東大震災史研究会編『地域に学ぶ関東大震災：千葉県における朝鮮人虐殺その解明・追悼はいかになされたか』（日本経済評論社、2012年）

朝鮮大学校朝鮮問題研究センター編『Q&A 関東大震災 100 年 朝鮮人虐殺問題を考える』（八月書館、2023年）

藤野裕子『民衆暴力：一揆・暴動・虐殺の日本近代』（中公新書、2020年）（特に第4・5章）

ほうせんか編『増補新版 風よ鳳仙花の歌をはこべ：関東大震災・朝鮮人虐殺・追悼のメモランダム』（ころから、2021年）

山田昭次『関東大震災時の朝鮮人虐殺とその後：虐殺の国家責任と民衆責任』（創史社、2011年）

山田昭次『関東大震災時の朝鮮人迫害：全国各地の流言と朝鮮人虐待』（創史社、2014年）

### ◇ その他

郭基煥『災害と外国人犯罪流言：関東大震災から東日本大震災まで』（松籟社、2023年）

加藤直樹『TRICK：「朝鮮人虐殺」をなかったことにしたい人たち』（ころから、2019年）

趙景達編『植民地朝鮮：その現実と解放への道』（東京堂出版、2011年）

辻野弥生『福田村事件：関東大震災・知られざる悲劇』（五月書房、2023年）

### ◇ HP

「記憶を刻む」 <https://1923archives.blogspot.com/>

「朝鮮人虐殺はなかった」はなぜデタラメか：関東大震災時の朝鮮人虐殺を否定するネット上の流言を検証する」 <http://01sep1923.tokyo/>

「1923 関東朝鮮人大虐殺を記憶する行動」 <https://kantoukioku1923.blogspot.com/>

「つまずきの石」 <https://x.gd/XLclm>